

**令和5年度 厚生労働省・青森県委託事業**  
**令和5年度ICTの進展等を踏まえた薬局機能の高度化推進事業**

**「残薬調整を活用した健康サポート機能充実事業」**

一般社団法人 青森県薬剤師会  
専務理事 青柳 伸一

# 残薬調整を活用した健康サポート機能充実事業 概要 青森県（青森県薬剤師会）

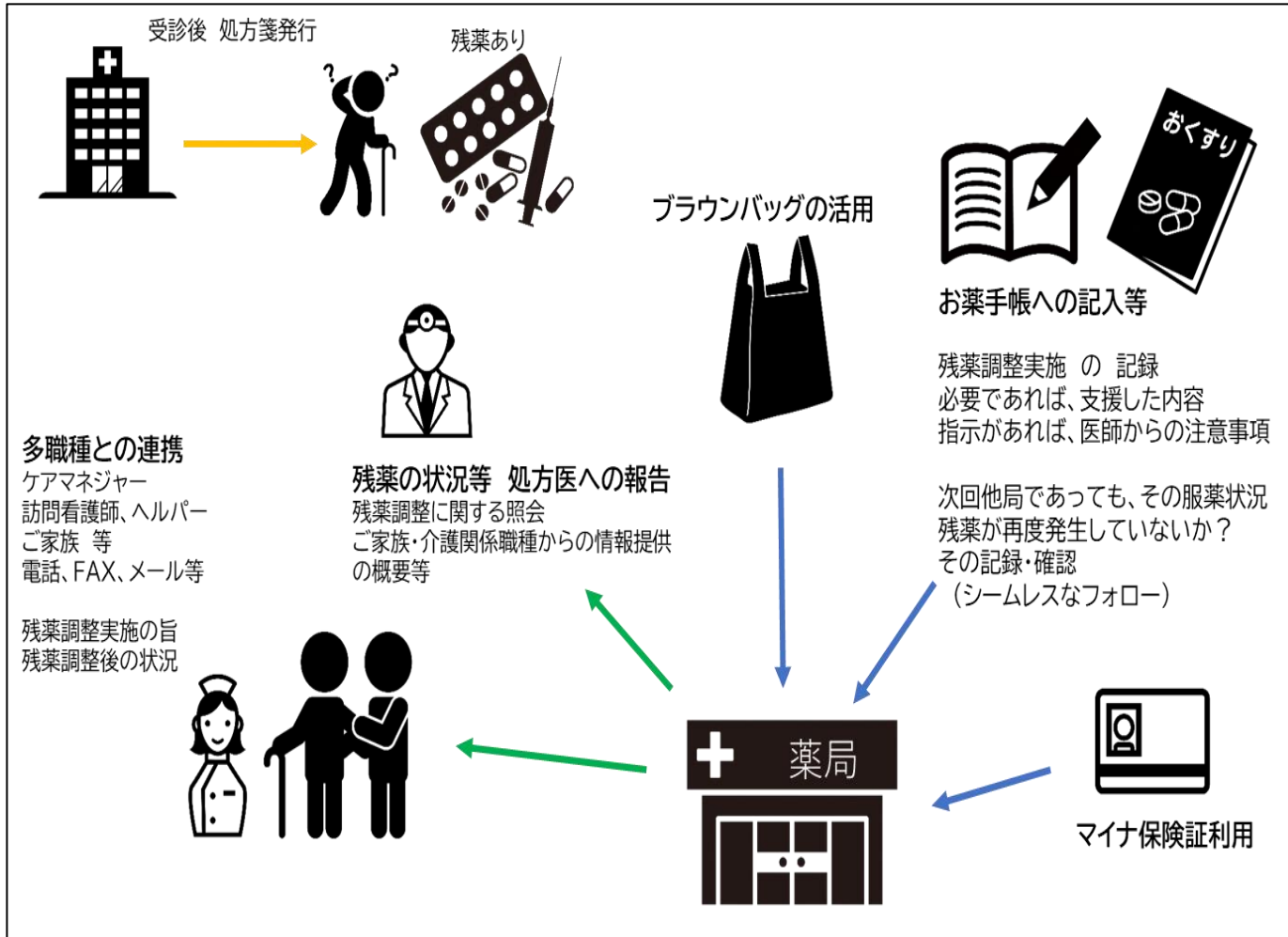
## 1. 事業の背景と目的

今後の人口減少や高齢化に伴う地域包括ケアシステムの更なる進展が求められることを踏まえると、今後の薬局は、地域の他の薬局や医療機関等と連携しながら薬学的専門性を活かした対人業務を充実させるとともに、地域住民に薬局の有用性を認知してもらう必要がある。当該事業は、薬局薬剤師がこれまでの調剤業務に加え、住民のセルフメディケーションの支援等といった付加価値のある健康サポート業務を積極的に取り組むことができるようにし、地域住民に薬局をまちかどの気軽な相談場所として認識、活用してもらうために実施するものである。患者の残薬調整の機会を活用して薬剤師が相談・助言等を行うことで、健康サポートの機能の充実を図るとともに、印象的な事例の収集及び対人業務に関する効果を検証する。

## 2. 事業内容

ブラウンバッグによる残薬調整の実施中に、患者からの健康相談などの対応を行うことで、患者が気軽に薬局へ相談に来られるような関係を構築する。（患者等との関係性構築）また、患者の飲み忘れの原因を確認し、認知機能の低下が疑われる場合などに、医療機関への受診勧奨などを行い、早期発見・治療につなげ、ケアマネジャーなどの関係機関と情報共有を行う。（関係機関との情報共有）

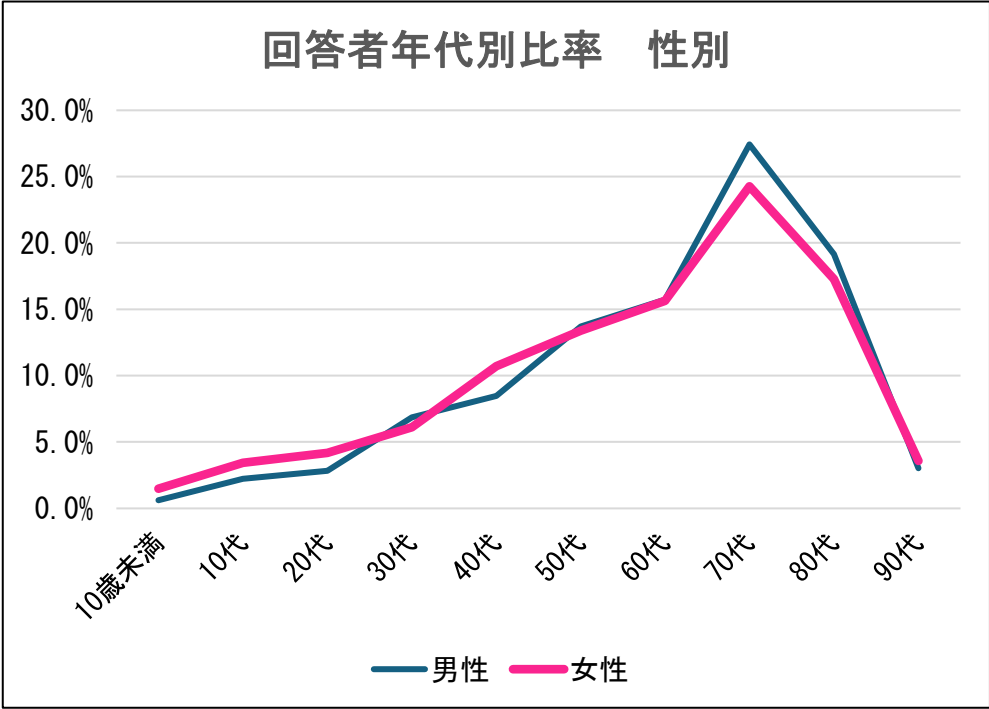
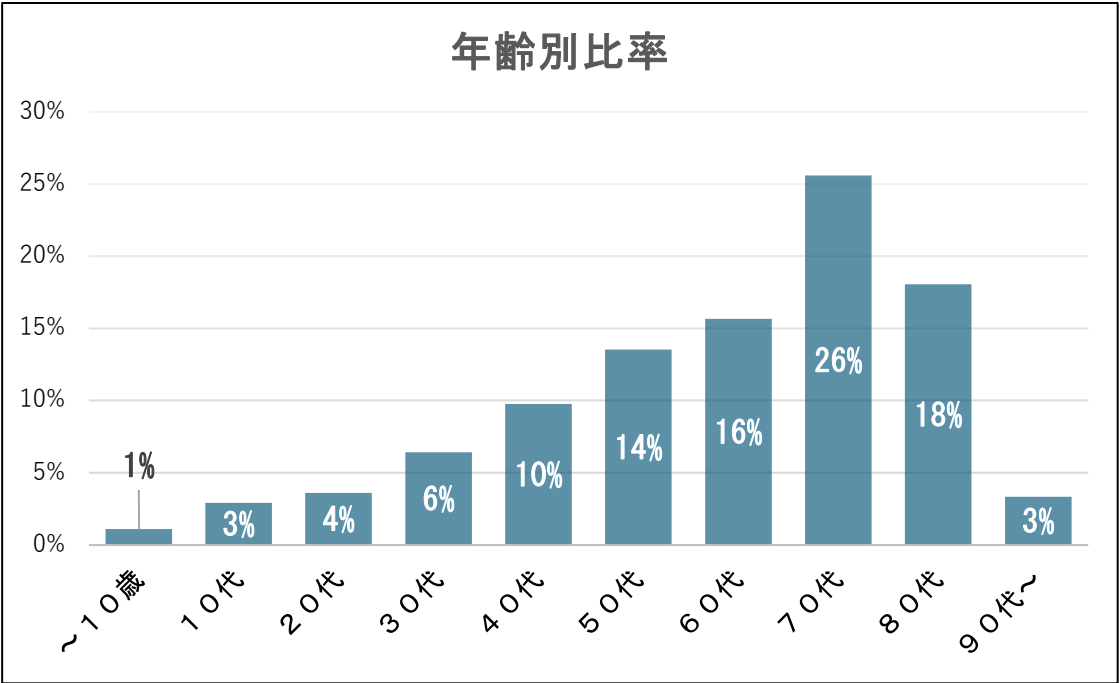
そのほか、薬局に対してのアンケート調査から事業結果を分析し、残薬調整をきっかけとした相談・指導が、健康サポート機能の充実にどの程度寄与したかを検証する。



# 残薬調整を活用した健康サポート機能充実事業 データ

- 調査で収集した期間内の回答者総数は1,168名  
青森県人口 1,185,800人（母集団 令和5年）
- 同一人物への重複した調査を避ける目的で、調査協力者には、お薬手帳に調査協力が確認できるよう「実施済シール」を貼付する仕組みとした。
- 本調査では10代以下から90代以上までの年齢層で収集ができた。

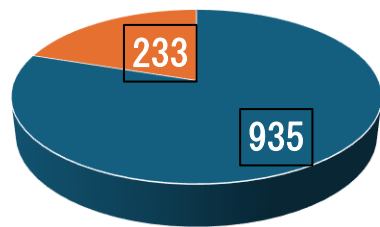
年齢区分	～10歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代～
調査人数	13	34	42	75	114	158	183	299	211	39
本調査	1%	3%	4%	6%	10%	14%	16%	26%	18%	3%



男性496回答（42%）、女性672回答（58%）となった。これは厚生労働省集計令和2年度外来における受診者数と同様の比率となった。

# 残薬調整を活用した健康サポート機能充実事業 残薬の調査

## 本調査 残薬経験の有無 1168例



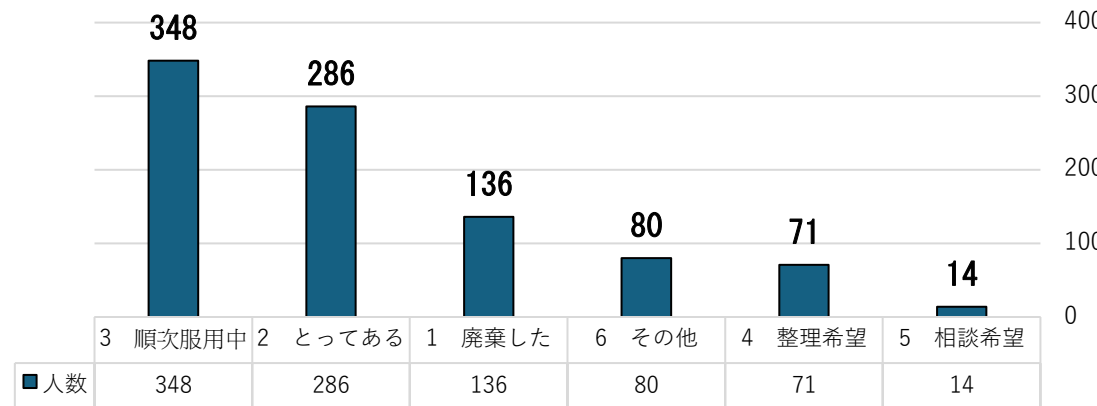
■残った経験あり 80% ■残った経験なし 20%

平成27年厚生労働省から患者のための薬局ビジョンが示され、平成28年度診療報酬改定において、残薬解消や多剤・重複投薬の防止等に係る取組として

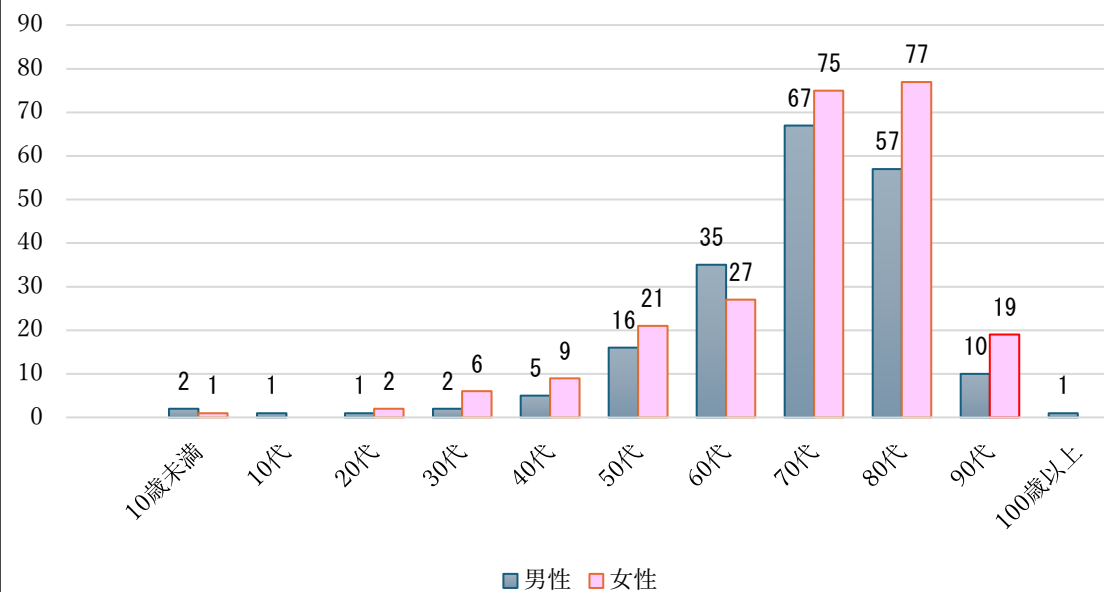
- ① 医療機関において処方されている医薬品の調整を行い減薬した場合の評価の新設
- ② 薬局において処方されている医薬品の調整を行い減薬した場合の評価の新設
- ③ 薬局において処方内容の疑義照会を行い処方変更した場合の評価などの充実が図られた。

残薬の理由	男性	女性	%	全体
以前からの飲み忘れ	204	224	33.2%	428
症状が改善し自己判断での中止	92	169	20.2%	261
その他理由	88	92	14.0%	180
受診日に余裕を持ちたい	74	103	13.7%	177
薬剤、医療機関の変更	39	69	8.4%	108
副作用が心配	16	30	3.6%	46
指示通りに飲まない	27	14	3.2%	41
量が多い・飲み方がわからない	21	20	3.2%	41
服用できない	3	5	0.6%	8

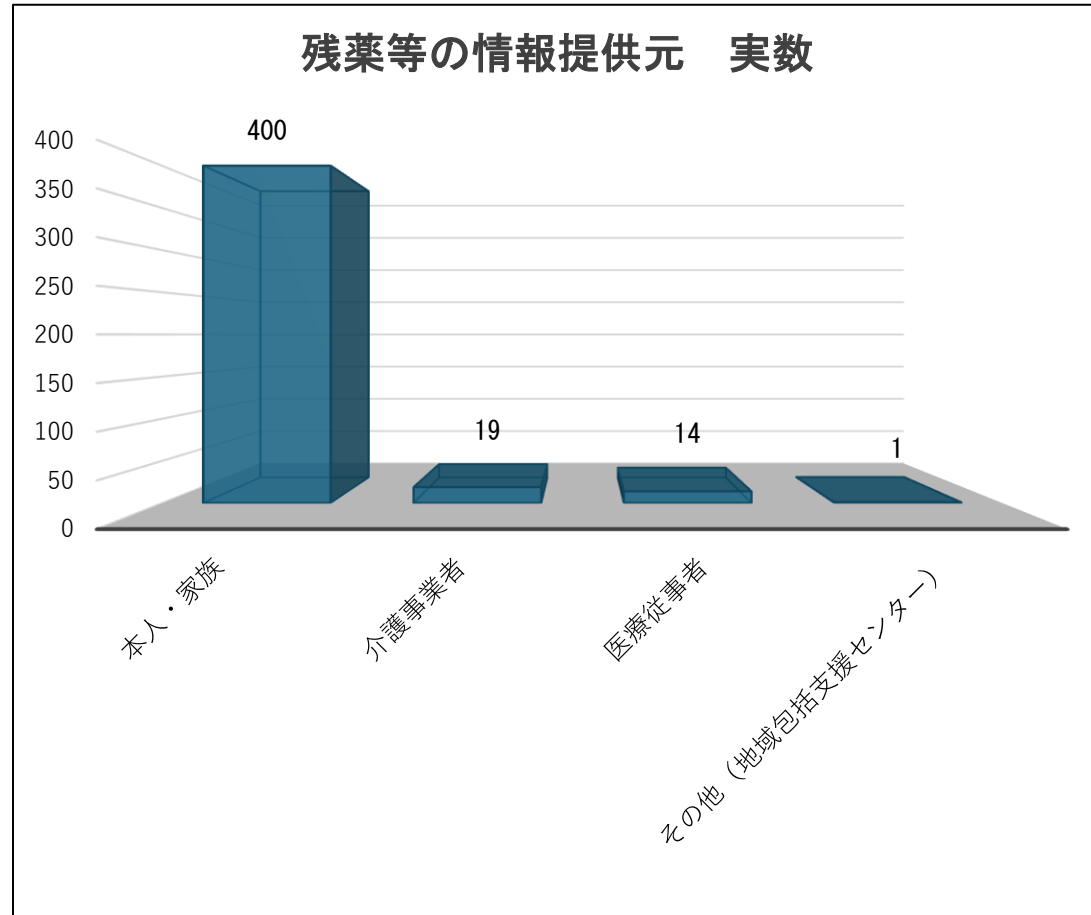
## 残った薬はどうしましたか



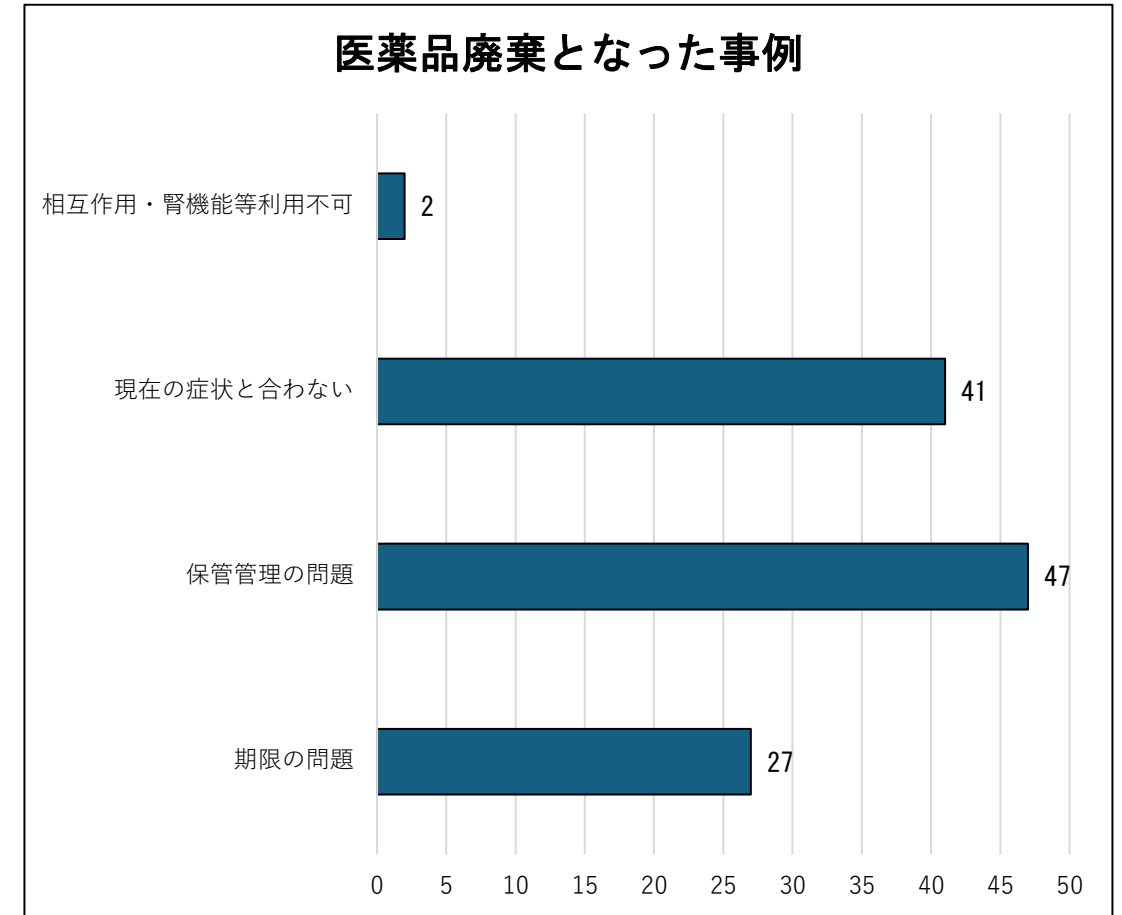
## 薬剤師の介入した年齢と人数（総数 434事例）



# 残薬調整・残薬確認等 実績



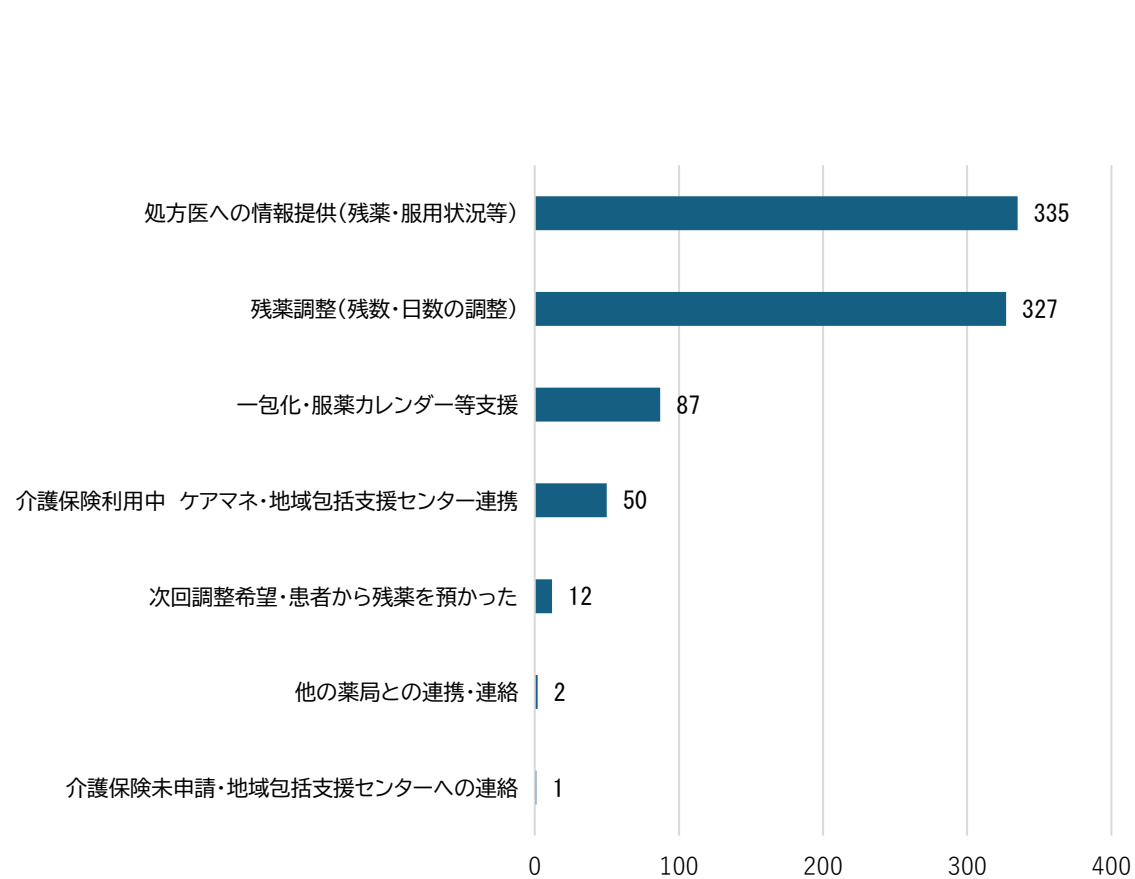
廃棄した薬剤数	39
廃棄金額(薬価換算)	¥149,587



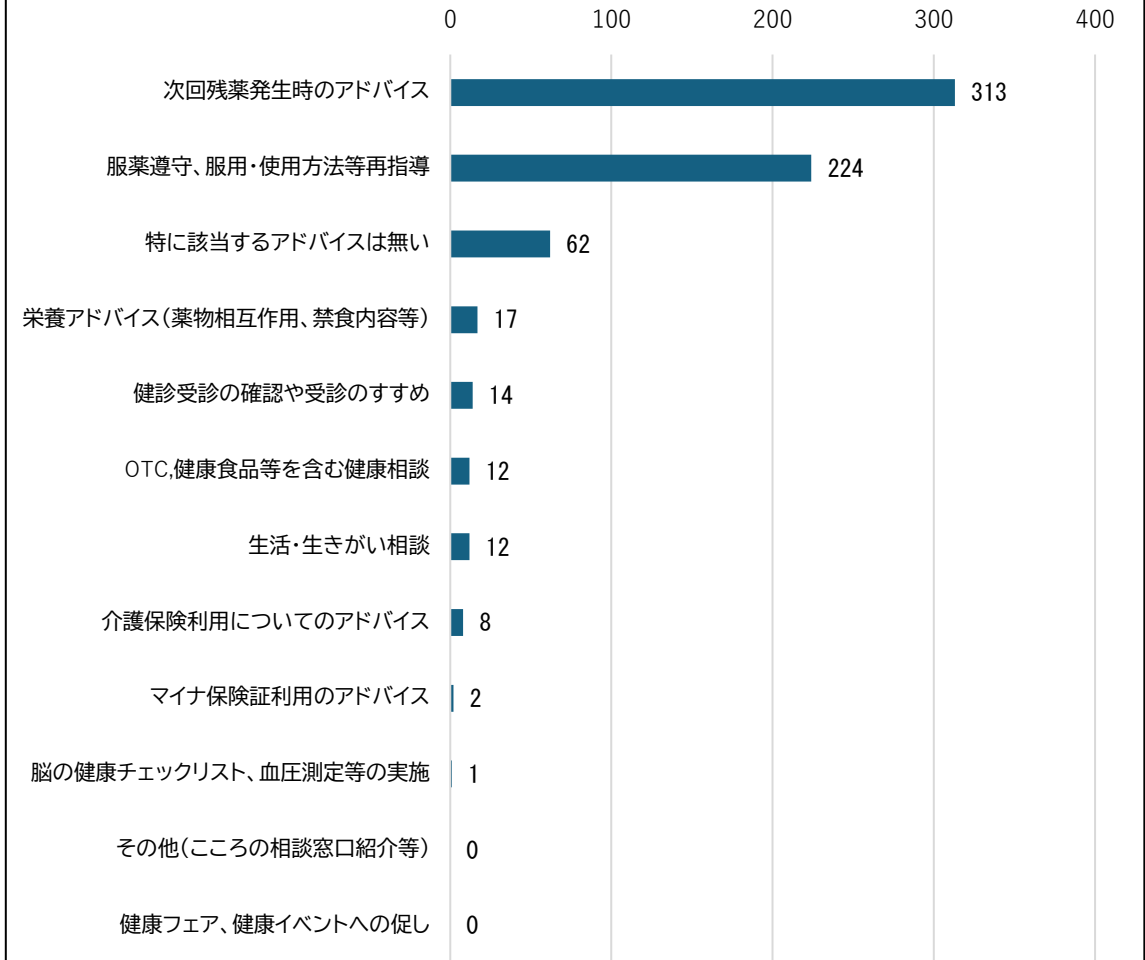
残薬調整 薬剤数	395
調整金額(薬価換算)	¥1,555,569

# 残薬調整時 薬剤師の実施事項 と 健康サポート機能

## 残薬調整時に行った事項



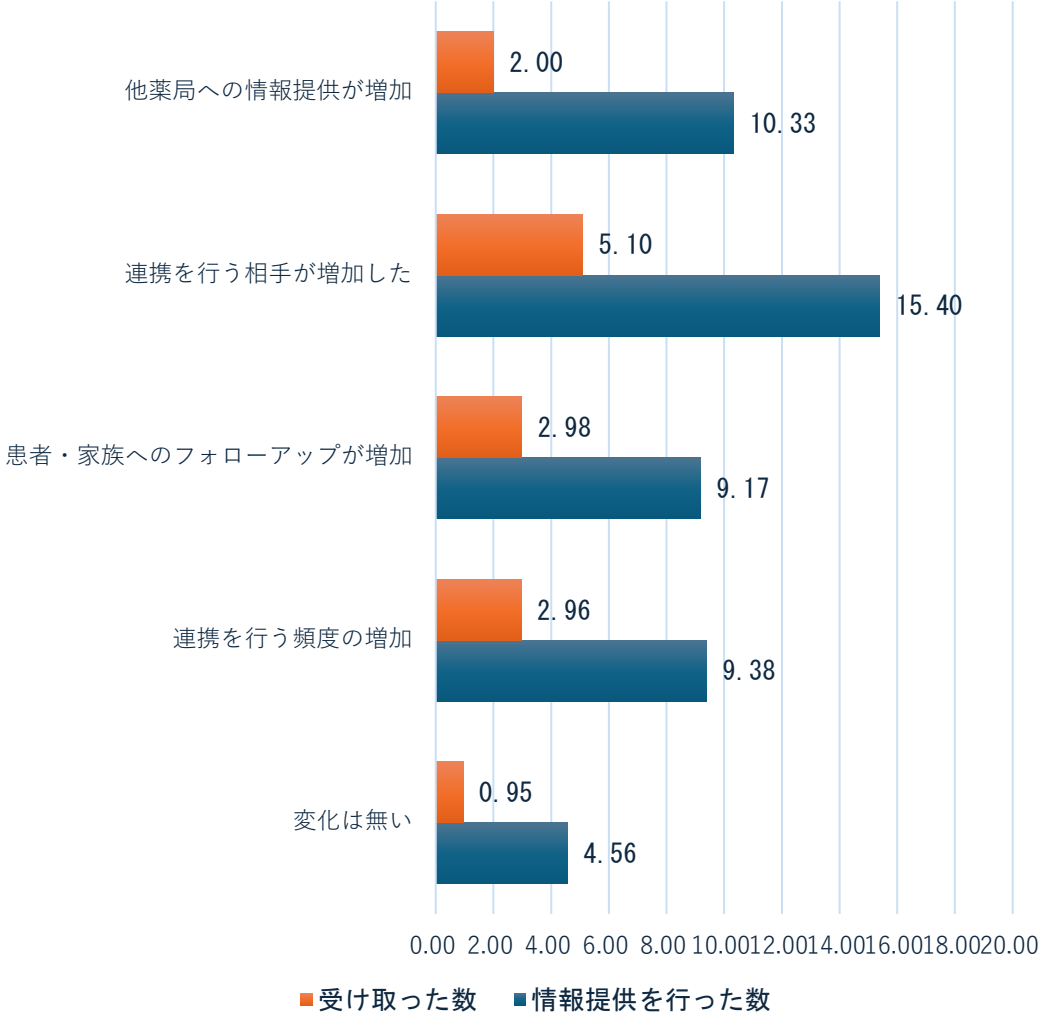
## 残薬調整時に実施した健康サポート



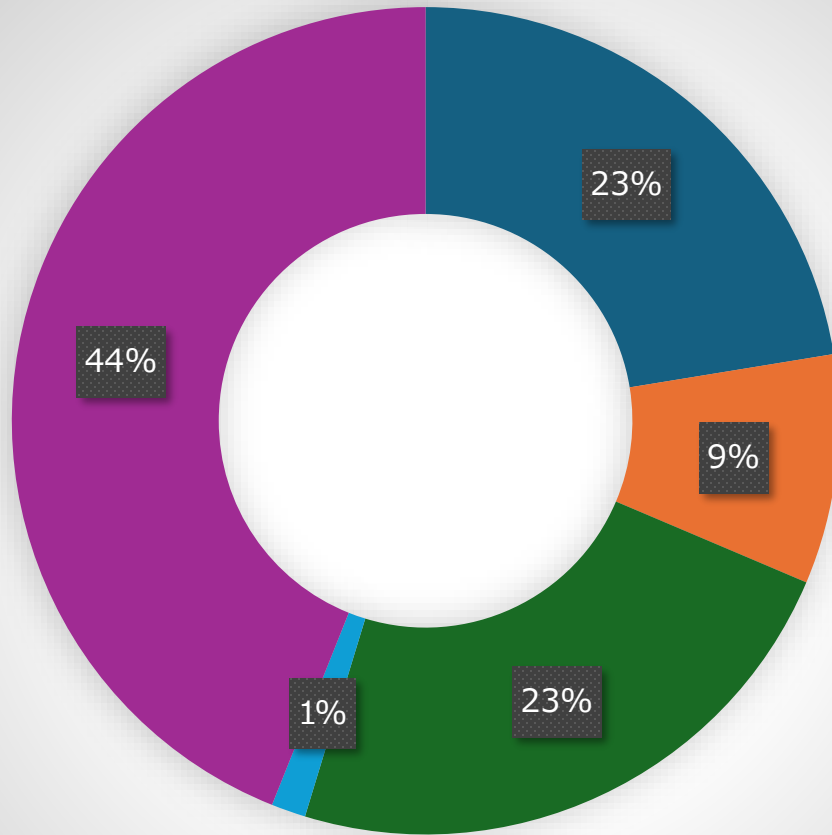
# 連携結果・連携増加因子

- ①【医療機関との連携強化】
  - ・高齢の患者さんで、1日2回朝夕食後の薬を朝はヘルパーさんの介入で飲めても、夕は一人で過ごしているため飲み忘れが多い状態が続いていた、処方元の医療機関へ具体的な残数や服薬状況を報告したところ、処方内容や用法の見直しを今後検討する旨医療機関より回答あり。
- ②【家族等との連携強化】
  - ・こちらから積極的に情報提供を行うことにより、患者さん自身、そのご家族からも感謝され、様々な情報をより入手しやすくなると同時に、色々な面で頼られる存在にもなった。残薬について積極的に確認していたところ、今までよりも食事や生活環境等についての質問が増えた。
- ③【多職種との連携強化】
  - ・最近認知機能の低下を疑う問い合わせがあり。残薬調整時『ちょっと聞きたいことがある』『戦争で父親の顔がわからない。8/12に慰霊祭があると思うが・・・』と薬と離れた内容と思われる問いかけを受けた。残薬調整後一包化して投薬した。その後、地域包括支援センターに連絡し、後日職員が訪問した結果認知症の治療も開始され、介護認定も進めることができた。
- ④【他薬局との連携強化】
  - ・ほかの薬局の残薬もあることがわかり、おくすり手帳を確認し処方変更となった。もう飲んでいない薬を廃棄し、残薬がある旨手帳に記載し他の調剤を実施している薬局へ連絡した。その結果、飲み忘れがあっても状態が落ち着いていることより現在服用中の薬も減量することができた。
- ⑤【QOLの向上】
  - ・透析患者からの生き甲斐相談あり。辛い腹膜透析の生活から、趣味のギターを弾いてその動画をYouTubeにアップする明るい生活へ導くことができた。
  - ・副作用（抗生物質での血便）の相談があり。処方医へ連絡するとともに検診を受けていないことを聞き取り受けるよう勧めた。その後検診を受けた結果、大腸がんの早期発見へとつながった。
- ⑥【医療機関・多職種と連携強化】
  - ・1日1回朝食後の服用薬を認知症患者が服薬できず。用法の変更を医師に相談し、昼食後に用法変更となった。その後、通所介護事業所にいるヘルパーと連携しデイサービス利用時に一包化した薬を昼食後に服用させることができた。

## 連携増加の因子 情報提供・受取の関係



## 連携結果（複数選択可能）



■ 常時連携を行う相手の増加

■ 新規連携先 相談・残薬調整の増加

■ 家族本人へのフォローアップ増加

■ 他薬局との連携増加

■ 変化無し

常時連携を行う相手の増加	50
新規連携先 相談・残薬調整の増加	20
家族本人へのフォローアップ増加	52
他薬局との連携増加	3
変化無し	98
合計	223

青森県は広い県土と複雑な地形を持ち、薬局を含めた医療資源も都市部に偏りが見られることから、患者様も受診した病院の近隣の薬局で薬を受け取る場合も多く、地域の保険薬局での一元的な管理は進みにくい状況にあります。自治体と薬局・薬剤師や関係団体等との連携した地域全体の取組の実施により、青森県の実情に合った包括的な支援体制の構築が可能だと考えております。